盛夏期の管理

盛夏期の管理には次の点に注意することが大切です。

- ① 果実が大きくなるが、着果量の見直しをするよい時期。随時、園地を見回り基準に応じた適正着果量にする。
- ② 摘果作業が遅れて果実肥大の劣る園地では、基準よりも1～2割着果量を少なくして、肥大の遅れと花芽の充実を図る。
- ③ 8月下旬は夏期せん定の時期である。樹勢の強い樹は徒長枝や直上枝の除去、不要な枝を間引いて樹完内の日光透射をよくし、果実の着色向上、花芽の充実および樹勢を落ち着かせる。
- ④ 気温の上昇とともに、斑点落葉病、褐斑病、ハダニ類、キンモンホソガなどの発生が懸念されるので、よく観察して予防散布に努める。また、9月に不順天候が続くと予想される場合には、最終散布後も病虫害の発生に注意し、必要に応じて特別散布を実施する。
- ⑤ 「つがる」の落果防止剤（ストップール液剤）散布は、収穫開始予定日の25～15日前の1回散布とするが、処理時期の目安は、満開起算日数で115～125日を基準にする。
- ⑥ 「さんさ」「つがる」の着色管理は、果実が着色し始める8月中下旬から行う。1回目は果実に密着している葉を主体に摘み取り、2回目は着色の様子を見ながら玉回しと併せて多少強めに行う。